

1 年

1 学期の成果と課題	
1 生活指導全般	<p>○自ら進んであいさつを行う生徒は多い。授業終始のあいさつについても感謝の気持ちを伝えられている。</p> <p>○朝の登校時間に遅れてくる生徒はほぼいない。</p> <p>▲チャイムで座れている生徒がほとんどであるが、チャイムでスタートができる準備（心・道具）ができていない生徒が多い。</p> <p>▲対話を大切にできている生徒がまだまだ少ない。特に相手の話をしっかりと姿勢と視線を意識して聴くことができていない。</p>
2 学習指導全般	<p>○全般に学習に前向きに取り組み、落ち着いて真面目に授業に取り組んでいる。</p> <p>○グループ活動でも活発に発言していて盛り上がりのある授業となっている。</p> <p>▲家庭学習の学習時間にムラの見られる生徒が一部見られる。</p> <p>▲提出物が滞る生徒が一部見られる。出せない生徒は固定化している。</p>
3 特別活動全般	<p>○推進は声かけ、呼びかけをしてくれる子が多い。</p> <p>○推進、リーダー以外の立場の子にも、声かけをしてくれる子が多い。</p> <p>○リーダーが前に立ったら、話を聴くという空気ができる。</p> <p>○リーダーの指示に対して返事や肯定的な反応がある。</p> <p>▲リーダーとしての行動（スキル）がまだ十分ではない</p>

2 学期以降の重点指導項目
<p><生活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話（特に聴くこと）を大切にさせる。姿勢と視線を意識させ、様々な活動において他者の話を聴かせることの大切さを伝えていく。 ・時間を大切にさせる。特にチャイムスタートを徹底させ、他者の時間を奪うことのないように意識させていく。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の充実を図る。自学ノートの質を高める取り組みと週末課題の精査により、家庭学習の充実の手立てとする。 ・提出物が滞る生徒に関しては、一律の課題設定ではなく、それぞれの状況に応じて、家庭との連携を図りながら、個別に対応を進めていく。 <p><特活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが固定化されないように、様々な生徒にリーダーの立場を経験させていく。 ・リーダーとしての行動を教えていく。（例. 集団への指示の出し方・段取りなど） ・学級集団形成の進展に応じて、生徒が主体的に活動し自治的に集団づくりに参画できるように、教師からは指示よりも問いを投げかける頻度を増やしていく。 （例. 今このクラスでは、全員が安心して過ごせていると思いますか？等）

1 学期の成果と課題	
1 生活指導全般	<p>○自分からあいさつをするについて、昨年度とほぼ変化はないが、会釈をする生徒は増えたように感じる。</p> <p>○学校に、悩みを相談する先生や大人がいるについて、昨年度49%であったが、今年は59%であり、生徒が困っていることについて、迅速に対応がすることができた。</p> <p>○気になる生徒（不登校傾向、問題行動）について、SCなどを活用することで、生徒理解の向上に努めることができた。</p> <p>▲自問清掃に対する意識が低く、学級や学年集会で指導を続けてきた。今後も継続して、黙想の充実、三つの玉について指導が必要である。</p> <p>▲2年生としての部活動や生徒会活動での役割と責任について、意識させる取り組みが必要である。</p>
2 学習指導全般	<p>○生徒の多くは、落ち着いて学習に取り組んでいる</p> <p>○チャイムスタートは、推進委員の取り組みにより、おおむね意識でできるようになった。</p> <p>○自学ノートの取り組み方を再確認する啓発活動により、自学ノートの内容をよりよくする意識で取り組むことができた。</p> <p>○授業のルールを守って、授業に参加しているは91%、授業が分かりやすいも81%とほぼ例年通りの高さを維持できた。</p> <p>○読書が好きであるが、74%と昨年の64%から10%向上した。</p> <p>▲家庭学習の目標時間は1日80分であるが、48%と前年度より23%低い割合になっている。</p> <p>▲提出物が滞る生徒が一部見られ、粘り強い指導が今後も必要である。</p> <p>▲基礎・基本が身につけていない生徒に対し、個別の支援が必要である。</p>
3 特別活動全般	<p>○号令の取り組みなど、推進委員が学級や学年全体の現状から必要な課題を考え、改善するための企画を実践できている。</p> <p>○推進委員の取り組みで、推進委員だけでなく班長を巻き込んで、係や委員会の仕事を自分たちで声を掛け合う取り組みは効果的であった。</p> <p>▲リーダーとその他の層の二極化が見られたため、リーダーをサポートするフォロワー育成により注力していかなければならない。そのため、推進以外のリーダーを巻き込んだ企画を立てたり、取り組みを始める前に推進から目的や目指す姿を共有したりしていきたい。</p> <p>▲将来の夢や目標を持っている生徒は57%（昨年度66%）と低いので行事の振り返りや委員会活動、係活動などで自己有用感を持てるような取り組みを行う。</p>

2 学期以降の重点指導項目

- <生活> 学校のミドルリーダーとしての自覚のもと、自問清掃の充実が図られるように指導していく。
- <授業> 家庭学習に対する意識を高め、学年で共通理解を図り、実践していく。
- <特活> リーダーとフォロワーを育成し、学年生徒の現状に応じた生徒主体の活動を設ける。

1 学期の成果と課題	
1 生活指導全般	<p>○学校のルールや社会のマナーを意識して生活している生徒が95%であり、多くの生徒が身なりや時間を意識して生活している。</p> <p>○最終学年として各行事への意欲が高く、リーダーを中心に活動を進めることができた。</p> <p>▲授業の開始時にトイレや保健室に行っていて、教室にいないというケースが見られた。授業開始時の教員による確認を確実に行うことが必要である。</p> <p>▲登校時間の少し遅い生徒が見られる。高校受験やその後の社会に出てからの生活を意識させるよう指導していくことが必要である。</p> <p>▲自問やあいさつなどの肯定的評価が高くない。生活基盤となる習慣や考え方、行動を意識した指導をしていきたい。</p>
2 学習指導全般	<p>○学習に前向きに取り組み、落ち着いて授業に参加できている。</p> <p>○高校の体験入学に多くの生徒が参加し、自分の将来を前向きに考えている。</p> <p>▲家庭学習が1～2時間がもっとも多く、受験に向けて学習の量や質を高める必要がある。</p> <p>▲理由や根拠を記述し答える問題に対し無答の生徒が多いことから、授業で自分の考えを書く機会を増やしていきたい。</p>
3 特別活動全般	<p>○推進委員会で、自分たちの現状を踏まえ、よりよい集団となるために企画運営を考えて実施した。5月「クラスメイトのいいね。探し」7月「チャイムスタート」によって、自分たちで生活改善できた。</p> <p>○生徒会活動に関心を持って、進んで参加しているというアンケート項目は昨年度より微増しており、最上級生として少し意識している生徒もいる。</p> <p>▲取り組み期間が終わると意識が薄れて、元に戻る生徒が多かった。リーダーが継続して声掛けできるようにするために、サポーターとなる生徒を育て、支える体制を整えたい。</p> <p>▲最終学年として前に立つ場面で多くの生徒を立たせ、認める・ほめる場面を多く作り、自信を持って行動できるように意識させたい。</p>

2 学期以降の重点指導項目
<p><生活> 受験に向けて、「聴く」こと、「呼応」することを大切にし、集団の一員として主体性を持ち学習や行事に取り組んでいける学年集団づくりに努める。</p> <p><学習> 自ら学び、高め合う集団作り・雰囲気づくりのために、粘り強く考え、書くことを意識した授業づくりを行う。シート学習を継続して行い、家庭学習の習慣をつくる。</p> <p><特活> 行事などを通して、生徒の成長や良さを認め、褒める場面を積極的につくる。</p> <p><進路> 進路決定に向けて、情報の提供や相談などを個に応じて丁寧に行う。</p>

教務部（中間評価）

成果と課題	<p>【重点目標】 重点目標の周知が不十分。</p> <p>【各種会議】 日程検討により短縮日課を導入し、週平均授業時数は29時間と昨年度1学期よりは多いが、会議に対しての数値は変わらず。会議の在り方を検討していく必要がある。</p> <p>【楽しい・安心】 生徒の「楽しい」は各学年で微増ではあるが増加している。保護者の「安心」は高い数値を維持も双方「全く当てはまらない」は0%ではない。</p> <p>【情報発信】 生徒が配付物を渡さず、保護者へ学校情報が届いていない現状が見いだせる。</p> <p>【最終退校時刻】 肯定的評価微増も、否定的評価が5分の1弱を占めている。</p>
-------	---

2 学期以降の重点項目

- 各学年・分掌で「重点目標」を意識した活動となるよう周知・確認する
- 「各種会議」日程を共有し、各主任を中心に一人1台端末を活用し、職員間の情報共有・常的な協議体制を重層化し、諸会議の有用性の向上、会議の効率化を図る。会議は1時間以内
- 生徒の「自己有用感」向上にむけて、教育活動の中で生徒を認め褒める場面を増やす。
- 配付物の重要性について、適宜、各クラスで指導されるよう、各学年で意識の共有を図る。
- 「なくす・減らす・変える」視点を各分掌・学年での取り組みにも適用していくことは勿論だが、「報連相、期限を守る」といった組織的対応を重要視することで業務削減を果たす。

研究学習部（中間評価）

成果と課題	<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業規律を整え、更に個→ペア・グループ→個という見通しのもてる授業がなされていることにより、わかりやすさが増している。 ▲家庭学習の取り組みについては、1・2年生は自学ノートと普段の授業の復習をどのように繋げていくかなどの具体的な指示や方策が必要である。また、家庭学習の目標時間を設定し、時間をどのように使うかなどのモデル等を示すことも実践していく。 ▲「先生や友達の質問に対して、理由や根拠をつけて説明するようにしている」という項目について、数値は微増している。しかしどのように学習を進めていくべきか、またどのように授業に臨むべきかということについて学校全体の共通の目標等が具体的に示されていないため、研究学習部から全学年向けに学習への臨みかたについて発信する。 <p>【キャリア教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前年度同様、全体的に進路学習の取り組みに対して保護者への周知が徹底してきている。学年だよりや進路だよりなどを使って、内容や生徒の振り返りを伝えられたことが理解への高まりにつながっている。 ▲働くことの価値観や、将来の進路実現に向けて意識を高めていく機会がこれからも必要である。 <p>【道徳・人権教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間指導計画を基に各学級の実情に合わせて授業を行うことができている。 ▲道徳の授業改善や評価に関して、職員会議等での提案が適宜必要である。 <p>【情報教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業で単なる提示装置としてのみではなく、生徒の思考のためのツールや、意見を共有するためのツールとして用いられることが増えた。 ▲クロムブックが必要な時にすぐに取り出せないのは、不便である。現状では教員が適宜取り出しているが、利用ルールを徹底させるなどして利便化を図る必要がある。 ▲複数のサイトやドリル的なものがあり、どれをどの場面で利用させたらよいのかなど、職員への使い方の研修が必要である。
-------	--

2 学期以降の重点項目

- ・家庭学習充実のための学校全体、学年、学級等の取り組みの工夫
- ・生徒が認められ、更に理由や根拠を加えて表現するための授業の工夫
- ・ICT機器使用のための研修の充実

生徒指導部（中間評価）

成果と課題	<p>【生活規律】 ○ルールや決まりを守って学校生活を送ることに關しては、T S Pのいずれも昨年度から改善が見られる。 △職員の数値は満足のいくレベルのものではない。</p> <p>【あいさつ】 △昨年度と同様に、職員の数値と生徒・保護者の数値が大きく離れている。</p> <p>【対応・相談】 ◎不登校の生徒に対する指導に關して、職員の結果が昨年度と比較して大幅に上昇している。 ○生徒の「悩みを相談できる先生や大人がいる」の結果が、昨年度よりも若干上昇している。 △依然として生徒回答の数値の低さに変わりはない。</p> <p>【自問清掃】 △職員の自問清掃に關する項目で、大幅なダウンが見られる。</p>
-------	---

2 学期以降の重点項目	
<p>【生活規律】 ・小さなルール違反や乱れに対する声かけを大切にしていく。 ⇒ [重点] 名札, かばんのキーホルダー, 遅刻</p> <p>【あいさつ】 ・生徒会や委員会によるあいさつの取組を計画・実施する。</p> <p>【対応・相談】 ・不登校が増加しやすい2 学期には、不登校傾向の早期対応を充実させる。 ・スクールカウンセラーの勤務日や利用方法を生徒・保護者に周知できるようにする。</p> <p>【自問清掃】 ・自問集会等を活用した自問の全体指導の機会を積極的に設定する。 ・職員会議の中で、生徒の自問清掃の取り組みせ方などの方法や工夫を共有する。</p>	

特別活動部（中間評価）

成果と課題	<p>・学級や学年、学校を「自分たちの手でつくっていく」という意識を根付かせたい。</p>
-------	---

2 学期以降の重点項目	
<p>・運動会、合唱コンクール、文化祭など、行事によって生徒たちに自己存在感、自己有用感を感じられるようにする。</p> <p>・日常的な学級活動、生徒会活動において、1 つ 1 つの取り組みをもう一度とらえなおし、集団への所属感を高めるような声掛けをしていきたい。</p> <p>・学級の状態を常にアセスメントし、効果的な働きかけを教師がその場で行っていく。</p>	